

校長室だより

日本福祉大学付属高校 2014 年 1 月 8 日

万人の福祉のために

真実と慈愛と献身を



保護者の皆様、明けましておめでとうございます。今年も「どの子も伸ばす」を合言葉に、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。校長

「幸せの種まきを」 ～始業式式辞（要旨）～

世の中は平和に向かっているのか、それとも逆の方向に向かっているのでしょうか。残念ながら世界の様々なところで紛争や対立がおきています。国内でも最近の政治情勢を見て「日本は大丈夫だろうか」と心配している人たちも少なからずいます。

しかし世界の人々の共通の願いは戦争のない平和な世界であることは言うまでもないでしょう。そのことは昨年、亡くなったネルソン・マンデラ元大統領に対して、世界のいたるところで追悼する集会が開かれたことでよくわかります。

マンデラ元大統領は南アフリカのアパルトヘイトに反対したために、27 年間もの間、刑務所に閉じ込められました。母親や息子の葬儀にも行けず、さぞ自分を罰した勢力に敵意や憎しみを抱いていたであろうと想像しますが、実際はそうではなかった。なぜでしょうか。

マンデラさんの言葉に次のようなものがあります。

「生まれたときから肌の色や宗教で他人を憎む人などいない。人は憎むことを学ぶのだ。もし憎しみを学べるなら愛を教えることもできる。愛は憎しみに比べ、より自然に人間の心に響く」と。

私たちはこのマンデラさんの言葉から深く学ぶ必要があるのではないのでしょうか。生きている以上、感情がぶつかったり、人間関係がうまくいかないことがあります。そういうときには、相手に対して憎しみや恨みを持ったり、暴力に訴えては何の解決にもなりません。かえって対立は増すばかりです。暴力対暴力の行き着く先は私たちが一番嫌う戦争です。私たち平和を愛する国民は私たちらしい方法で問題を解決することが必要です。

昨年 1 年間、自分の振る舞いはどうだったのかを振り返ってみてください。自分を客観的に見る第三者の目で見てください。そして自分で問うてみましょう。「今を精一杯生きているか、自分の周囲にいる人を大切にしているか、他人の痛みや苦しみに思いをめぐらせているか」と。

マンデラ大統領は様々な人種の人たちが融和する「虹の国」をつくろうと努力し、国民はもちろん世界中の人々から熱狂的な支持を集めました。私たちもお互いを認め合い、尊重し、高めあう「虹の学校」をつくろうではありませんか。君たちならきっとできると私は信じています。

年末の新聞に昨年の文化祭の取材をしてくださった方の記事が載りました。「東日本大震災で被災した東北地方の伝統芸能を披露した 3 年 C 組を取材し、生徒らの真剣さに胸を打たれた」と。

またある生徒は、昨年 9 月から月に一度、学校の近所にあるデイ・サービスでボランティア活動をおこなっていますが、お年寄りの方たちが彼女たちを楽しみに待っていると聞きました。彼女たちがボランティアに来る日は、お年寄りの数が増えるとのこと。とても素敵な話しです。

学園創立者鈴木修学先生は「**幸せになりたければ幸せの種を蒔くことが必要です。その種が大きく育ち、やがて自分の幸せにつながってきます。**」と教えられました。若い皆さんが幸せの種を大いに蒔いてくれることを期待します。

さて 3 学期は 1 年間の締めくくりです。マラソンでいうと 37、38 キロ地点のあたりでしょう。残り数キロで勝負が決まることがあります。寒くてつらい時期ですが、1、2 年は学年の締めくくりに向けて、3 年生は卒業や新たな進路への準備のために頑張ってください。